

4. 花き類

(1) きく

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
エスレル10	開花抑制	全面散布（株全体がぬれる程度）	摘芯時又は定植後1週間以内及びその10日～14日毎	3回以内（エテホン3回以内）	
オキシベロン粉剤0.5	さし木の発根促進及び発生根数の増加	さし穂基部（切り口から約1cm）に粉衣	-	1回（インドール酪酸1回）	
オキシベロン液剤	さし木の発根促進及び発生根数の増加	10秒さし穂基部浸漬	-	1回（インドール酪酸1回）	
		3時間さし穂基部浸漬	-		
		5～10秒さし穂全体浸漬	-		

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	薬剤名	使用方法	使用上の留意点
さし木の発根促進及び発生根数の増加	オキシベロン粉剤0.5 （インドール酪酸0.5%）	1. さし穂基部（切り口から約1cm）に粉衣。 （製剤10g当り処理本数）さし穂の直径8～6mmは約100～200本、6～4mmは約200～300本、4～2mmは約300～400本、2mm以下は約400～500本	
	オキシベロン液剤 （インドール酪酸0.4%）	1. 以下のいずれかを行う。 ・100～200倍液（10～5ml/水1ℓ）：5～10秒さし穂全体浸漬 ・2倍液（1,000ml/水1ℓ）：10秒さし穂基部浸漬 ・500～1,000倍液（2～1ml/水1ℓ）：3時間さし穂基部浸漬	
開花抑制	エスレル10 （エテホン10%）	1. 500～1,000倍で摘芯時又は定植後1週間以内及びその後10～14日毎全面散布（2～10ml/株、全体がぬれる程度） 3回以内	

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度又は希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
エスレル10	早期不時発蕾防止	全面散布（株全体がぬれる程度）	親株摘芯時	500倍	2～10ml/株	3回以内（エテホン3回以内）	A		きく（電照栽培）
ジベレリン水溶剤 ジベラ錠 ジベラ錠5 ジベレリン錠剤 ジベレリン ジベレリン粉末 ジベレリン液剤	開花促進、草丈伸長促進	茎葉散布	生育期	ジベレリン25～100ppm	50～100ℓ/10a	2回以内（ジベレリン2回以内）	A		
スミセブンP液剤	節間の伸長抑制（矮化）	茎葉散布	摘芯10日後頃	25～50倍	5～10ml/5号鉢（原液0.1～0.2ml/5号鉢）	2回以内（ウレコナールP2回以内）	B		きく（ポットマム）

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
タチガレン液剤	発根促進	土壌灌注	挿し芽直後	1000 倍	5～10 ℓ/m ²	1 回(トド ^ロ キイノキサ ^ツ ール 1 回)	A		
ビーナイン顆粒水 溶剤	節間の伸長 抑制	茎葉散布	生育期	500～5000 倍	50～150 ℓ/10a	4 回以内 (タ ^ミ ジツ ^ト 6 回以 内)	A		きく(切花 用)(施設 栽培)
			摘芯後 10 日～7 日又 は定植 3 日 後から発蕾 初期	200～400 倍	5～10 ml/5 号鉢	3 回以内 (タ ^ミ ジツ ^ト 3 回以 内)			きく(ホ ^ッ ト マ ^ム)(施設 栽培)
	花首の伸長 抑制		発蕾期～摘 蕾期	500～5000 倍	50～150 ℓ/10a	2 回以内 (タ ^ミ ジツ ^ト 6 回以 内)			きく(切花 用)(施設 栽培)

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(2) りんどう

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
ジベレリン水溶剤	生育促進	茎葉散布	定植直前又 は定植 1～5 週間後	ジ ^ベ レリン 100ppm	50～150 ℓ/10a	1 回(ジ ^ベ レリン 2 回以 内(但 し、種子 への処理 は 1 回以 内、は種 後は 1 回 以内))	A		
ジベラ錠									
ジベラ錠 5									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤									
ジベレリン液剤	発芽促進	種子浸漬	は種前	ジ ^ベ レリン 50 ～200ppm	-	1 回(ジ ^ベ レリン 2 回以 内(但 し、種子 への処理 は 1 回以 内、は種 後は 1 回 以内))	A		

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(3) カーネーション

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
オキシベロン粉剤 0.5	さし木の発根促進及び発生根数の増加	さし穂基部（切り口から約1cm）に粉衣	-	1回（インドール酪酸1回）	
オキシベロン液剤	さし木の発根促進及び発生根数の増加	16～24時間さし穂基部浸漬 5秒さし穂基部浸漬又はさし穂100本あたり10mlをさし穂基部に散布			
ビーエー液剤 プレリユード液剤	側芽発生促進	茎葉散布	側芽発生前	2回以内（ベンジルアミノリン2回以内）	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	薬剤名	使用方法	使用上の留意点
さし木の発根促進及び発生根数の増加	オキシベロン粉剤0.5 （インドール酪酸0.5%）	1. さし穂基部（切り口から約1cm）に粉衣。 （製剤10g当り処理本数）さし穂の直径8～6mmは約100～200本、6～4mmは約200～300本、4～2mmは約300～400本、2mm以下は約400～500本	
	オキシベロン液剤 （インドール酪酸0.4%）	1. 以下のいずれかを行う。 ・200～400倍液（5～2.5ml / 水1ℓ）に16～24時間さし穂基部浸漬 ・2倍液（1,000ml / 水1ℓ）に5秒さし穂基部浸漬、又はさし穂100本当り2倍液の10mlをさし穂基部に散布	
側芽の発生促進	プレリユード液剤 （ベンジルアミノリン3.0%） ビーエー液剤 （ベンジルアミノリン3.0%）	1. 側芽発生前に300倍液を株あたり6ml茎葉に散布	

(4) トルコギキョウ

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度又は希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
ジベレリン水溶剤 ジベラ錠 ジベラ錠5 ジベレリン錠剤 ジベレリン ジベレリン粉末 ジベレリン液剤	生育促進	茎葉散布	生育期間中に嘔吐化した時	ジベレリン50～100ppm	30～40ℓ/10a	1回（ジベレリン1回）	A		

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

(5) ストック

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ビビフルフロアブル	開花促進	茎葉散布	葉数 10～14 枚時とその 7～10 日後	2 回 (プロヘキサジノンカルシウム塩 2 回以内)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	薬剤名	使用方法	使用上の留意点
開花促進	ビビフルフロアブル (プロヘキサジノンカルシウム塩 1.0%)	1. 葉数 10～14 枚時とその 7～10 日後の 2 回 1,000 倍液 (100ℓ / 10 a) を茎葉散布。	1. 散布は所定の散布水量で茎葉部に均一にかかるようにする。 2. 他の農薬や葉面散布剤とは混用しない。 3. 処理により節間がやや伸びる傾向にある。

(6) チューリップ

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
オキシベロン液剤	花茎基部の伸長	1 株あたり 1 ml を葉間に滴下	第 1 葉の長さが 9～10cm の時期	20～40 倍 (50～25 ml/水 1 ℓ)	—	1 回 (インドール酪酸 1 回)	A		
ジベレリン液剤	開花促進	筒状の葉の中心部に滴下	草丈 7～20cm の時に 7 日間隔	ジベレリン 400ppm	1 球あたり 1 ml	2 回以内 (ジベレリン 2 回以内)	A		チューリップ (促成栽培)
フルメット液剤	花丈伸長促進及び茎の肥大促進	ジベレリン 100ppm 液に加用、葉筒内滴下処理	草丈 7～10cm 時	ホルクロルフェニロン 0.05～0.1ppm	—	1 回 (ホルクロルフェニロン 1 回)	B		チューリップ (促成栽培)

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(7) シクラメン

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
エスレル 10	開花抑制	茎葉全面散布	花芽発達期 (但し、初回散布以降は 20～21 日間隔を開ける)	3 回以内 (エテホン 3 回以内)	

注 1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	薬 剤 名	使 用 方 法	使用上の留意点
開花抑制	エスレル10 (エテホン 10%)	1. 花芽発達期以降、出荷の90～120日前までに、500倍液を株当たり4mℓ散布する。 (初回散布以降は20～21日間隔を開ける。3回以内)	1. 生育が不良な株に用いた場合、生育抑制あるいは開花数が減少することがあるため、使用しない。 2. 最終散布日は7月下旬～8月下旬とする。 3. 処理時期が遅れると出荷時の開花数が減少するおそれがあるため、最終散布は出荷を希望する90～120日前を目安とする。ただし、地域及び品種によって処理時期が異なるので、十分注意する。 4. 薬剤処理後、一時的に枯死葉、黄化葉、あるいは花卉の緑化が認められることがあるが、その後回復し品質には問題ない。 5. シクラメンに本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害を十分確認してから使用する。

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
ジベレリン水溶剤	開花促進	花蕾を含む 芽の中心部 に散布	9月中・下 旬	ジベレリン1～ 5ppm	1株当たり 2～5 mℓ	1回(ジベ レリン1回)	A		
ジベラ錠									
ジベラ錠5									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤									

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

(8) カラー

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
ジベレリン水溶剤	生育促進	茎葉散布	花茎伸長期	ジベレリン 50ppm	50～150 ℓ/10a	1回(ジベ レリン2回以 内)	A		
ジベラ錠									
ジベラ錠5									
ジベレリン錠剤									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤	生育促進	球根浸漬	植付時	ジベレリン 50ppm	-	1回(ジベ レリン2回以 内)	A		
ジベレリン錠剤									
ジベレリン液剤									

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

(9) プリムラ

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
ジベレリン水溶剤	開花促進	株の中心部に散布	11月上旬頃の花蕾出現直後	ジベレリン 10～20ppm	1株あたり 2～5 ml	1回(ジベレリン1回)	A		プリムラ (マラコイデス)
ジベラ錠									
ジベラ錠5									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤									

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(10) ペチュニア

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
ビーナイン顆粒水溶剤	節間の伸長抑制	茎葉散布	定植後2週間目	100～200倍	50～150 ℓ/10a	1回(タミジット [®] 6回以内(但し、水溶剤は4回以内)	A		ペチュニア(施設栽培)

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(11) れんぎょう

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ヒットα13	休眠打破による発芽促進	切り枝全面散布又は切り枝浸漬	休眠覚醒期(促成開始期)	1回(シアミト [®] 1回)	れんぎょう(切り枝促成栽培)

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

使用目的	薬剤名	使用方法	使用上の留意点
休眠打破による発芽促進	ヒットα13 (シアミト [®] 13%)	1. 休眠覚醒期(促成開始前) 15倍液の切り枝浸漬	1. 促成開始時期は各産地の気温条件を考慮して行う。 2. 自然状態で休眠覚醒後の処理では、促成期間の短縮効果はないので、時期を逃さず処理する。 3. 浸漬時に薬液の付かない部分は効果がないので、むらのないように処理する。 4. 栽培中の作物に薬液がかかると薬害を生じるので、飛散しないようにする。残液は河川等に流さない。

(12) その他花き

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度は又希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
オキシベロン粉剤 0.5	さし木の発根促進及び発生根数の増加	さし穂基部（切り口から約1cm）に粉衣	6月～7月（夏さし）	(製剤10gあたり処理本数) さし穂の直径8～6mm 約100～200本、6～4mm 約200～300本、4～2mm 約300～400本、2mm以下 約400～500本	—	1回(インドール酪酸1回)	A		ベゴニア
ビーナイン顆粒水溶剤	節間の伸長抑制	茎葉散布	子葉展開後	200～400倍	50～150ℓ/10a	2回以内(タミジット4回以内)	A		はばたん(施設栽培)
			鉢上げ後						
			定植後3日～30日	100～200倍	50～150ℓ/10a	1回(タミジット1回)	A		ポインセチア(施設栽培)
スミセブンP液剤	節間の伸長抑制(矮化)	茎葉散布	摘芯10日後頃	15～25倍	5～10ml/5号鉢(原液0.3～0.5ml/5号鉢)	2回以内(ウニコナールP2回以内)	B		ポインセチア
ルートン	挿木(挿苗)時処理して発根を促進する。	1) 挿木(挿苗)の基部を3cmぐらい水にひたしその部分にうすい層になって付着する程度に粉のまままぶす。2) 或いは本剤を適当量の水でペースト状にねってから挿木の切り口にぬりつける。日陰干で乾燥してから挿す。この場合挿木(挿苗)にあまり多量に厚く塗布しないようにすること。上記の方法で処理し挿しおわったら周囲に土をかけてよく固めておくこと。	—	—	—	-(1-ナフチルアセトアミド-)	A		花き(きく、ゼラニウム等)
オキシベロン液剤	さし木の発根促進及び発生根数の増加	12～24時間さし穂基部浸漬	—	200～400倍(5～2.5ml/水1ℓ)	—	1回(インドール酪酸1回)	A		花き類・観葉植物(カーネーション、きく及びチューリップを除く)
		5～10秒さし穂基部浸漬		2倍(1000ml/水1ℓ)					
ジベレリン水溶剤	発芽促進	種子浸漬	は種前	ジベレリン 50～200ppm	—	1回(ジベレリン1回)	A		花き類(りんどうを除く)
ジベラ錠									
ジベラ錠5									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤									
ジベレリン錠剤	発芽促進	種子浸漬	は種前	ジベレリン 50～200ppm	—	1回(ジベレリン1回)	A		花き類

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。